

所在地：山形県長井市

選定年月日：平成30年2月13日

面積：166.8ha

選定基準：二(一)(五)(七))

(1) 概要

山形県南西部の最上川上流左岸の朝日連峰支脈である西山と最上川上流右岸の東山に囲まれた長井盆地の中心に位置する長井の町場は、中世以前からの門前町及び宿場町等の性格が複合した2つの在郷町(ざいごうち)である宮村(みやむら)と小出村(こいでむら)を起源とします。

新潟へ向かう越後街道、庄内・出羽三山方面へ向かう道智道等が交差する交通の要衝であり、それぞれの村では宮村館(みやむらだて)や白山館(はくさんだて)が政治的拠点となり、商いの中心となる宮の十日町、小出のあら町が米沢藩の物資の集散地として長井の町場の発展を牽引しました。特に、最上川舟運期には、宮村に米沢藩の陣屋と船着場、小出村には商人衆による船着場が設置され、公的な青苧蔵(あおそぐら)や上米蔵(じょうまいぐら)が置かれて、置賜(おきたま)地方西部の物資の集散地・商業地として流通・往来の中心となりました。

江戸時代後期に描かれた『小出村絵図』には、館の周辺に役人が居住し、町人が現在のあら町や本町などの通り沿いに居住する様子が描かれており、在郷町でありながら商人の町としても発展したことが伺えます。現在も本町、大町、高野町、十日町、あら町などでは、商人が居住した通り沿いに間口が狭く奥行きが深い短冊状の地割りが並び、店・住宅・蔵と続く土地利用を確認することができます。

最上川西岸の街道に沿って商家群等が点在する景観は、江戸時代の最上川舟運に由来する町場景観として重要です。



長井橋上空から町場を望む

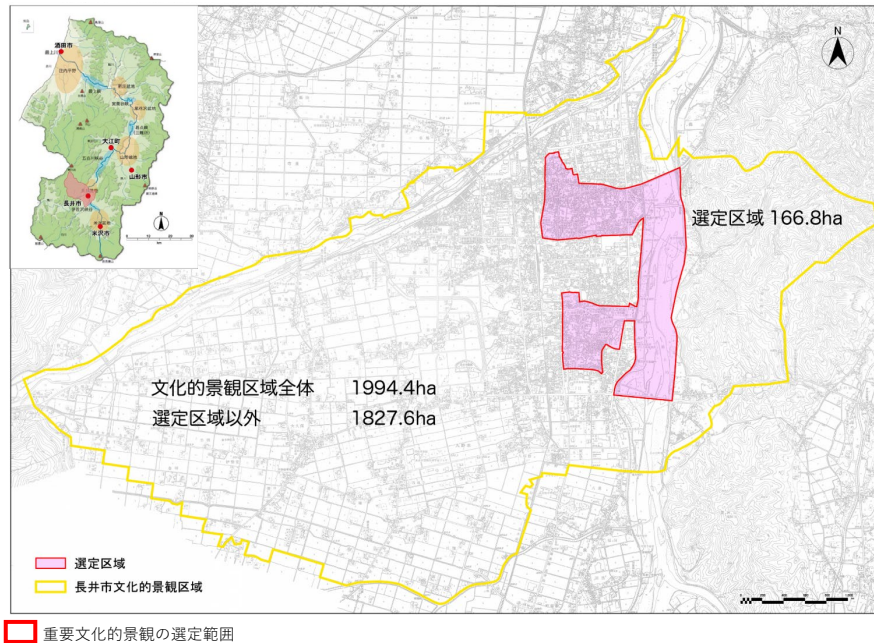


宮村に由来する十日町の町並み

町場に張り巡らせた水路の一つである平野川。
生活用水や水運に用いられたほか、
遊水地の役割を担う

小出村に由来するあら町の町並み

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：48件
- 国指定等文化財（登録有形文化財（建造物））：鍋屋本店、長沼合名会社、齋藤家住宅、山一醤油店、旧丸中横仲商店

（３）選定による効果

選定後の平成30年度より調査や市民向けトークイベントやワークショップ等を通して令和2年度に整備活用計画を策定し、これに基づき同年度より補助事業を活用した重要な構成要素（建造物）の修理や修景を進めています。また文化的景観を旗印に、エリア内を巡るまち歩きは地元ボランティアガイドやまち歩きの任意団体、観光局によって、美観維持のため歩道周辺のゴミ拾いや河川清掃などは地区住民や複数の団体などによって、共同開催されています。



補助金を活用した整備（神社瑞垣屋根修理）



ガイドによる町場を巡るまち歩き

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 「長井市の文化的景観」調査報告書（平成26年3月、長井市教育委員会）
- 長井市の文化的景観保存調査報告書（平成29年6月、長井市教育委員会）
- 最上川上流域における長井の町場景観保存計画（平成29年6月、長井市教育委員会）
- 重要文化的景観「最上川上流域における長井の町場景観」整備活用計画（令和2年5月、長井市）
- ホームページ

https://www.city.nagai.yamagata.jp/kanko_bunka_sports/bunka/12698.html

動画 <https://www.youtube.com/watch?v=p-x24dbqdrI>

（５）活用事例

事例06-02 ①

市民・観光客と行政をつなぐ「文化的景観コーディネーター」

●行政による取り組み

地域おこし協力隊として芸術文化に係る業務を担う人材として任用した隊員が、建築士の資格を有し、まちづくりの手法の知見があったことから、任期中の活動として重要文化的景観を市民向けに理解を深めるワークショップなどのイベントを開催しました。

3年間の協力隊の活動を通し、地域とのしがらみのない「よそ者」の専門知識を地域に還元することで地域との信頼関係を築いていたことから、任期満了後に定住する際の業務の一つとして、市民や観光客などに向けた文化的景観の情報発信や周知などの業務を、市から受託し「文化的景観コーディネーター」として活動しています。

現在は、幅広い世代が文化的景観を知る機会として、謎解き要素を加えた親子向けと大人向けのまち歩きワークショップや、景観写真のパネル展など市民が参加できるイベントを開催しています。また、まちなみの色合いを分析し、どのような色合いや素材がまちなみに相応しいのかをワークショップを通して地域住民と検討し、エリア内の修景整備への意識を高めています。

文化的景観普及啓発等委託業務の内容

- ・ 文化的景観の情報発信・周知活動
- ・ 修景ガイドラインの作成支援
- ・ 追加選定の検討
- ・ 重要な構成要素（建造物）のき損、現状変更、補助事業に係る専門的観点からのアドバイス



① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 広域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

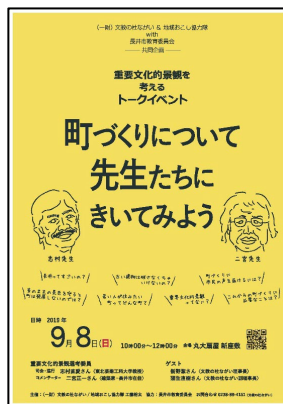
事例06-02 ②

構成要素をテーマにしたワークショップなどの開催や地元ガイドのまち歩きイベント

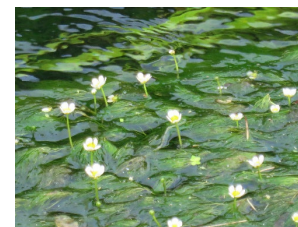
●住民や団体等による取り組み

江戸時代から続く商家の暮らしぶりを今に伝える旧丸大扇屋と擬洋風建築の旧西置賜郡役所（いずれも重要な構成要素）を管理する（一財）文教の杜ながいがいでは、重要文化的景観に関するトークイベントや写真展、構成要素である建造物の模型の作成や写生ワークショップなどを開催し、幅広い年代の方に文化的景観の理解を深める機会を創出しています。

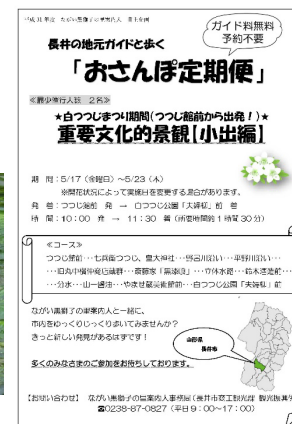
また、地元ボランティアガイド「ながい黒獅子の案内人」では、季節に合わせたまち歩きイベント「おさんぽ定期便」を企画し、市内外の来訪者をご案内しています。重要文化的景観のエリア内の重要な構成要素となっている歴史的建造物を巡るコースや構成要素となっているまちなかの河川の水中に咲く花「梅花藻（ばいかも）」を巡るコースを歴史的な背景や水の歴史など、ガイドの説明を受けながら巡ることで地域の魅力を知り、興味を深める機会となっています。



文教の杜ながいがいのイベント



水中に咲く花「梅花藻」



ボランティアガイド主催によるまち歩き

団体等情報：

文教の杜ながいがい
ながい黒獅子の里案内人

<https://www.bunkyounomori.com/>

<https://www.city.nagai.yamagata.jp/soshiki/kankobunka/2/event/865.html>

① 地域内での
魅力の共有② 活性化の
共有③ 地域外への
広報④ 魅力を引き
出す⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり